

チエツクシートの解答です。

上の句

- 1 秋の田のかりほの庵の 苫をあらみ
- 2 春過ぎて 夏来にけらし 白妙の
- 3 あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の
- 4 田子の浦に うち出でてみれば 白妙の
- 5 奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の
- 6 かささぎの 渡せる橋に おく霜の
- 7 天の原 ふりさけ見れば 春日なる
- 8 我が庵は 都の辰巳しかぞ住む
- 9 花の色は 移りにけりないたづらに
- 10 これやこの 行くも帰るも 別れては
- 11 わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと
- 12 天つ風雲の 通ひ路 吹き閉ぢよ
- 13 筑波嶺の 峰より落つる 男女川
- 14 陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに
- 15 君がため 春の野に出でて 若菜摘む
- 16 立ちわかれ いなばの山の 峰に生ふる
- 17 ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川
- 18 住の江の 岸に寄る波よるさへや
- 19 難波潟 短き芦の 節の間も
- 20 わびぬれば 今はた同じ 難波なる
- 21 今来むといひ しばかりに 長月の
- 22 吹くからに 秋の草木の しをるれば
- 23 月見れば ちちに物こそ 悲しけれ
- 24 このたびは 幣もとりあへず 手向山
- 25 名にし負はば 逢坂山の さねかつら
- 26 小倉山 峰のみみぢ葉 心あらば
- 27 みかの原 わきて流るる いづみ川
- 28 山里は 冬ぞ寂しさ まさりける
- 29 心あてに 折らばや折らむ 初霜の
- 30 有り明けの つれなく見えし 別れより
- 31 朝ぼらけ 有り明けの 月と見るまでに
- 32 山川に 風のかけたる 柵は
- 33 久方の 光のどけき 春の日に
- 34 誰をかも 知る人にせむ 高砂の
- 35 人はいさ 心も知らず ふるさとは
- 36 夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを
- 37 白露に 風の吹きしく 秋の野は
- 38 忘らるる 身をば思はず 誓ひてし
- 39 浅茅生の 小野の篠原 忍れど
- 40 忍れど 色に出でにけり 我が恋は

下の句

- わが衣手は 露にぬれつつ
- 衣ほすてふ 天の香具山
- 長々し夜を 独りかも寝む
- 富士の高嶺に 雪は降りつつ
- 声聞く時ぞ 秋は悲しき
- 白きを見れば 夜ぞ更けにける
- 三笠の山に 出でし月かも
- 世をうぢ山と 人はいふなり
- 我が身世に ふるながめせし間に
- 知るも知らぬも 逢坂の関
- 人とは告げよ 海人の釣り舟
- をとめの姿 しばしとどめむ
- 恋ぞつもりて 淵となりぬる
- 乱れそめにし 我ならなくに
- 我が衣手に 雪は降りつつ
- まつとし聞かば 今帰り来む
- 唐紅に 水くくるとは
- 夢の通ひ路 人目よくらむ
- 逢はでこの世を 過ぐしてよとや
- みをつくしても 逢はむとぞ思ふ
- 有り明けの 月を待ち出でつるかな
- むべ山風を 嵐といふらむ
- 我が身一つの 秋にはあらねど
- 紅葉の 錦のまにまに
- 人に知られで くるよしもがな
- 今一度の 行幸待たなむ
- いつ見きとてか 恋しかるらむ
- 人目も 草もかれぬと思へば
- 置きまどはせる 白菊の花
- 暁ばかり 憂きものはなし
- 吉野の里に 降れる白雪
- 流れもあへぬ 紅葉なりけり
- しづこなく 花の散るらむ
- 松も昔の 友ならなくに
- 花ぞ昔の 香にほひける
- 雲のいづこに 月宿るらむ
- 貫き止めぬ 玉ぞ散りける
- 人の命の 惜しくもあるかな
- あまりてなどか 人の恋しき
- 物や思ふと 人の問ふまで

決まり字

- あきの
- はるす
- あし
- たご
- おく
- かさ
- あまの
- わがい
- はなの
- これ
- わたのはら
- あまつ
- つく
- みち
- きみがため
- たち
- ちは
- す
- なにはが
- わび
- いまこ
- ふ
- つき
- この
- なにし
- をぐ
- みかの
- やまざ
- こころあ
- ありあ
- あさぼらけ
- あ
- やまが
- ひさ
- たれ
- ひとは
- なつ
- しら
- わすら
- あさぢ
- しの



# チエツクシートの解答です。



上の句

- 41 恋すてふ 我が名はまだき 立ちにけり
- 42 契りきなかたみに袖をしぼりつつ
- 43 逢ひ見ての 後の心に比ぶれば
- 44 逢ふことの 絶えてしなくはなかなかに
- 45 あはれども いふべき人は 思ほえて
- 46 由良の門を 渡る舟人かちを絶え
- 47 八重葎 茂れる宿のさびしきに
- 48 風をいたみ 岩打つ波の おのれのみ
- 49 みかき守 衛士のたく火の 夜は燃え
- 50 君がため 惜しからざりし 命さへ
- 51 かくとだに えやはいぶきの さしも草
- 52 明けぬれば 暮るるものとは 知りながら
- 53 嘆きつつ 独り寝る夜の 明くる間は
- 54 忘れじの 行く末までは 難ければ
- 55 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど
- 56 あらざらむ この世の外に 思ひ出に
- 57 めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に
- 58 有馬山 猪名の 笹原 風吹けば
- 59 やすらはで 寝なましものを さ夜更けて
- 60 大江山 いく野の道の 遠ければ
- 61 いにしへの 奈良の都の 八重桜
- 62 夜をこめて 鳥の空音は はかるとも
- 63 今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを
- 64 朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに
- 65 恨みわび ぼさぬ袖だに あるものを
- 66 もろともに あはれと思へ 山桜
- 67 春の夜の 夢ばかりなる 手枕に
- 68 心にも あらで憂き世に ながらへば
- 69 嵐吹く 三室の山のもみぢ葉は
- 70 さびしさに 宿を立ち出でて 眺むれば
- 71 夕されば 門田の稲葉 おとづれて
- 72 音に聞く 高師の浜の あだ波は
- 73 高砂の 尾の上の桜 咲きにけり
- 74 うかりける 人を初瀬の 山おろしよ
- 75 契りおきし させもが露を 命にて
- 76 わたの原 漕ぎ出でて 見れば 久方の
- 77 瀬を早み 岩にせかる 滝川の
- 78 淡路島 通ふ千鳥の 鳴く声に
- 79 秋風に たなびく雲の 絶え間より
- 80 長からむ 心も知らず 黒髪の

下の句

- 人知れずこそ 思ひ初めしか
- 末の松山 波越さじとは
- 昔は物を 思はざりけり
- 人をも身をも 恨みざらまし
- 身のいたづらに なりぬべきかな
- ゆくへも 知らぬ 恋の道かな
- 人こそ見えね 秋は来にけり
- くだけて物を 思ふ頃かな
- 屋は消えつつ 物をこそ思へ
- 長くもがなと 思ひけるかな
- さしも知らじな 燃ゆる思ひを
- なほ恨めしき 朝ぼらけかな
- いかに久しきものとかは知る
- 今日を限りの 命ともがな
- 名こそ流れて なほ聞こえけれ
- 今一度の 逢ふこともがな
- 雲隠れにし 夜半の月かな
- いでそよ人を 忘れやはする
- 傾くまでの 月を見しかな
- まだふみも見ず 天の橋立
- 今日九重に 匂ひぬるかな
- よに逢坂の 関は許さじ
- 人づてならでいふよしもがな
- あらはれ渡る 瀬々の網代木
- 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
- 花より外に 知る人もなし
- かひなく立たむ 名こそ惜しけれ
- 恋しかるべき 夜半の月かな
- 龍田の川の 錦なりけり
- いづこも同じ 秋の夕暮れ
- 芦のまろやに 秋風ぞ吹く
- かけじや袖の 濡れもこそすれ
- 外山の霞 たたずもあらなむ
- はげしかれとは 祈らぬものを
- あはれ今年 秋もいぬめり
- 雲居にまがふ 沖つ白波
- われても末に あはむとぞ思ふ
- 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守
- もれ出づる月の 影のさやけさ
- 乱れてけさは 物をこそ思へ

決まり字

- こひ
- ちぎりき
- あひ
- おうこ
- あはれ
- ゆら
- やへ
- かぜを
- みかき
- きみがため
- を
- かく
- あけ
- なげき
- わすれ
- たき
- あらざ
- め
- ありま
- やす
- おほえ
- いに
- よを
- いまは
- あさぼらけ
- う
- もろ
- はるの
- こころに
- あらし
- さ
- ゆふ
- おと
- たか
- うか
- ちぎりお
- わたのほら
- こ
- あわち
- あきか
- ながか

チエツクシートの解答です。



上の句

- 81 ほととぎす 鳴きつる方を眺むれば
- 82 思ひわびさても命はあるものを
- 83 世の中よ道こそなけれ思ひ入る
- 84 ながらへばまたこの頃や忍ばれむ
- 85 夜もすがら物思ふ頃は明けやらで
- 86 噴けとて月やは物を思はする
- 87 村雨の露もまだ干ぬ槇の葉に
- 88 難波江の芦のかりねのひとよゆえ
- 89 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば
- 90 見せばやな雄島の海人の袖だにも
- 91 きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに
- 92 わが袖は潮干に見えぬ沖の石の
- 93 世の中は常にもがもな渚漕ぐ
- 94 み吉野の山の秋風さ夜更けて
- 95 おほけなくうき世の民に覆ふかな
- 96 花さそふ嵐の庭の雪ならで
- 97 来ぬ人を松帆の浦の夕風に
- 98 風そよぐならの小川の夕暮れは
- 99 人も惜し人も恨めしあぢきなく
- 100 ももしきや古き軒端のしのぶにも

下の句

- ただ有り明けの月ぞ残れる
- 憂きにたへぬは涙なりけり
- 山の奥にも鹿ぞ鳴くなる
- 憂しと見し世ぞ今は恋しき
- 聞のひまさへつれなかりけり
- かこち顔なるわが涙かな
- 霧立ちのぼる秋の夕暮れ
- みをつくしてや恋ひわたるべき
- 忍ぶることの弱りもぞする
- 濡れにぞ濡れし色は変はらず
- 衣かたしきひとりかも寝む
- 人こそ知らね乾く間もなし
- 海人の小舟の綱手かなしも
- ふるさと寒く衣打つなり
- 我が立つ袖に墨染の袖
- ふりゆくものは我が身なりけり
- 焼くや藻塩の身もこがれつつ
- みそぎぞ夏のしるしなりける
- 世を思ふ故にも思ふ身は
- なほあまりある昔なりけり

決まり字

- ほ
- おも
- よのなかよ
- ながら
- よも
- なげけ
- む
- なにはえ
- たま
- みせ
- きり
- わがそ
- よのなかは
- みよ
- おほけ
- はなさ
- こぬ
- かせそ
- ひとも
- もも

できた？

じゃ、チャマメと対戦しよう

アプリで待ってるよ

